秋田県立図書館広報
秋田県立図書館だより
Vol.88
平成30年３月発行

「雑感・・・私のお薦め本」

秋田県立図書館長　高橋　貢

仕事柄「お薦め本の紹介」を依頼されることも多いが、最近、学生には「韻文系のアンソロジー本」を紹介している。現代の超多忙な学生には、詩、短歌、俳句の銘菓セットのような詰め合わせが、意外に好評である。読むのに時間がかからないし、その割に言葉が心に残る。かく言う私も、これまでかなりの数の本を読んできたはずなのに、情けないことにほとんど頭に浮かんでくるのは、若き日に触れた韻文のワンフレーズだけである。

私は、特に高校生には俳句のアンソロジー本を薦めている。「詠む」のでなく、「読む」方である。極限まで磨いた言葉や削り落とした表現を味わい、省略された事象や世界を類推し、一瞬の発見や感動を共有する。軽い読書としての俳句があってもいいのではないかと思う。頭や感覚のトレーニングやリフレッシュには最適だ。以下、私の中の残っていた俳句フレーズを幾つか。

俳句のアンソロジーの本

おもいきり泣かむここより前は海（寺山修司）　寺山十七歳の作句。意味はよくわからないものの、高校の時この句と出会って胸が震えた。それ以来、号泣する時は海へ行ってと決めていたが、これまでの人生で・・・・略。

流すべき流燈われの胸照らす（寺山修司）　これも寺山十代の句。オレンジ色の灯りが一瞬胸を照らす。それに包まれた、穏やかな祈りと悲しみと郷愁。背景も意味もわからないけれども、寺山修司のコトバは今でも甦ってくる。

算術の少年しのび泣けり夏（西東三鬼）　この句は、高校の現代国語の授業に出てきた。昔から、みんな数学に虐められてきたのだ思ったら気が楽になった記憶がある。数学嫌いにはうれしい句。しかし、情けなさと自己嫌悪で忍び泣くくらいでなければ、やはり勉強は身にならないのかも知れない。

学問のさびしさに堪え炭をつぐ（山口誓子）　あまり本格的に勉強したことはなかったが、この句は好きだった。冬でも隙間風の入る、田舎の実家の寒さを思い出す。学問の厳しさはわからなかったが、寂しさは痛いほど感じていた。

鰯雲人に告ぐべきことならず（加藤楸邨）　この句は、今でもしばしば脳裏に浮かぶ。誰の心の中にも、人には話したくないこと、知られたくないこと、そんな秘密の一つや二つはある。またそれとは別の意味で、人の心の中には、人に語らないで秘めているからこそ価値や輝きを失わない何かが、きっとあるに違いない。しかし、それがわかっていても言わずにいられない時もある。自己制御は難しいし、他人の心は計り知れない。そうした折りについつぶやく句である。

この道の富士になりゆく芒かな（河東碧梧桐）　俳句の鑑賞としては邪道だが、人生訓のように心にしみている句。座右の銘にしている。すべての物事は少しずつの積み重ね。何の苦もなく一挙に成功が手に入る幸運などまずあり得ない。富士の裾野に広がる鬱蒼とした樹海、寂しいススキの平原、しかし、道なき道であっても、ひたすら頂上に登りたいという意志を持って歩き続けると、ススキの原野も、やがてはあの富士の青き山頂につながるのである。

県立図書館としては、来年度、高等学校や支援学校との連携を更に強化、いい本を提供し読書活動を支援したい。折しも三月一日は高校の卒業式。卒業生諸君の前途を祝福し、はなむけに次の句を贈りたい。誰にでも未来はあるが、そこは白紙。そこにどんな絵が描かれるかは、現在の自分次第だ。

はまなすや今も沖には未来あり（中村草田男）

特集

県立図書館は市町村図書館等の運営を支援しています

各地区担当職員が訪問

市町村図書館の取組

県立図書館では職員が市町村図書館や公民館図書室に直接出向き、運営上の相談に応じたり、一緒に改善に取り組んだりしています。今年度も、県北、県央、県南各地区専任の担当職員が訪問し、継続的に支援をしています。今回は、職員が訪問した図書館等を一館ずつ紹介します。

県北地区　大館市立栗盛記念図書館

明るく開放感のある部屋でゆっくりと過ごせます。

平成２９年４月に多目的室やラウンジを増築し、館名を大館市立栗盛記念図書館に改称しました。多目的室には絵本や子育てに関する本が並べられ、小さい子ども連れでもゆっくりと過ごせるようになり、おはなし会や講演会などのイベントスペースとしても利用されています。

２階ロビーでは、市民の方の作品を展示する「図書館のちいさな美術館」を月替わりで開催し、作品の発表の場と、芸術を気軽に鑑賞できる場を提供しています。

様々な分野で活躍される方を講師に招いた講演会「図書館でホッとタイム」、ミニコンサートや古本市などの「図書館まつり」、職員によるおはなし会「おはなしとしょかん」など、図書館に足を運びたくなるようなイベントを開催しています。

中央地区　由利本荘市中央図書館

病院の１階に設けられた移動図書館のスペース。「今日はどんな本があるかな？」

由利本荘市中央図書館は、ＪＲ羽後本荘駅からほど近い由利本荘市文化交流館「カダーレ」の中にあります。内装には木がふんだんに使われており、とても居心地の良い図書館です。

昨年度から開始した病院への移動図書館は、患者さんや付き添いのご家族向けの病気に関する本だけでなく、小説や生活に役立つ本、趣味の本など幅広いラインナップが魅力です。これに併せて図書館では、健康・医療情報コーナーを設けました。

コーナーには、関連する本と一緒にチラシやパンフレット等も置かれ、幅広く情報を得ることができます。また、利用者の年齢層に合わせた展示コーナーもあり、行くたびに新しい発見ができる図書館です。

県南地区　仙北市立田沢湖図書館

“お休みの日の図書館を親子だけに開放”の様子。皆さん、思い思いに図書館を楽しんでいます。

仙北市立田沢湖図書館は昭和５６年に建設され、地域に根ざしたサービスにより、市民に親しまれている図書館です。昨年６月に行われた超大型絵本のおはなし会では、パンや駄菓子の出店もあり大盛況でした。夏休みには、県立博物館の出張展示「オーストラリア展」を実施し、珍しい有袋類の剥製や関連する図書を展示しました。１０月には、乳幼児と保護者の方限定で休館日の図書館を開放し、親子で楽しんでもらうイベントを実施しました。おはなし会のほか、おもちゃのコーナーや絵本のお楽しみ袋も好評でした。他にも地元の音楽家を招いてのコンサートや朗読会、手作り教室など、地域の賑わい作りに積極的に取り組んでいます。

Topics　～県立図書館の事業やイベントなどの紹介～

「県民読書の日」の取組について

明治３２年の開館以来、県立図書館では様々な資料を収集しています。

１１月１日は、県民が読書に親しむための機運を高める「県民読書の日」です。県立図書館ではこの日、書庫見学と貴重資料の紹介を行いました。

書庫見学では、参加者が２グループに分かれ、１階と４階の書庫を見学しました。書庫には本の他、新聞、雑誌、書画軸、マイクロフィルムなど、多くの資料が所蔵されています。普段は入ることのない書庫の中を歩きながら、参加者は、職員の説明を熱心に聞いていました。

その後、多目的ホールで行った貴重資料の紹介では、当館が所蔵する「御曹子島渡り」「佐竹本三十六歌仙絵巻」「解体新書」「蝦夷拾遺」について、職員が解説しました。参加者はメモをとりながら、資料にまつわるエピソードや所蔵に至る経緯等について、理解を深めていました。

ビジネスセミナー「起業の芽を育むBabame Baseの土作り」

熱心に耳を傾ける参加者。会場は熱気で包まれました。

１２月５日（火）、多目的ホールを会場にビジネスセミナーを開催しました。

五城目町にあるBabame Base を拠点に、一次産業と伝統産業のコンサルティングを行うChiSo の代表として活躍中の柳澤龍氏から、「起業の芽を育むBabame Base の土作り」と題して講演していただきました。秋田県に移住後、平成２８年度まで五城目町地域おこし協力隊として活動されていた頃のことや、現在行っている、高校生と地域の未来を描くソーシャルラボの取組などについてお話しいただきました。当日は雪がちらつくあいにくの天気となりましたが、多くの方にご参加いただきました。「秋田の未来に希望を感じた」、「自分にもできることがあるのではないか」といった感想が聞かれ、大いに刺激を受ける時間となりました。

お金と暮らしのセミナー

齋藤廣勝氏のわかりやすい解説が毎回好評のセミナーです。

毎年好評をいただいている秋田県金融広報委員会との連携セミナーを、今年度も２回開催しました。

「“知って得する”くらしの安心『マル得講座』」をテーマに、金融広報アドバイザーでファイナンシャルプランナーの齋藤廣勝氏を講師に迎え、「もめないための遺産分割の知識」と「知らないと損をする“サラリーマンの節約・節税”」について、分かりやすく解説いただきました。

今回のセミナーでは、初めてふるさと納税と個人型確定拠出年金「 iDeCo（イデコ）」を取り上げました。幅広い年代の方が参加してくださり、関心の高さがうかがえました。

Pick up ～各班からの話題～

図書資料班

平成29年度秋田県有形文化財に指定へ

『業平小町之図画賛「在原業平は」』(慶需翠渓筆、手柄岡持賛)

平成２９年度秋田県有形文化財に「手柄岡持（てがらのおかもち）（朋誠堂喜三二）」自筆作品並びに関係資料」（書跡・典籍）２２点が指定されることになりました。そのうち１５点が県立図書館所蔵資料です。

「手柄岡持」は享保２０年（１７３５）に江戸で生まれ、１４歳で秋田藩江戸藩邸詰の平沢常房の養子となりました。その後江戸で、藩主の近臣として仕え、天明４年（１７８４）に留守居役筆頭に取り立てられました。

安永２年（１７７３）江戸文壇に登壇。「朋誠堂喜三二（ほうせいどうきさんじ）」の筆名で小説を創作し、山東京伝らと並ぶ戯作者となりました。また、狂歌、狂詩、狂文の分野でも当代を代表する狂歌師として評価されました。

情報班・サービス班

「バリアフリーコーナー」について

「バリアフリーコーナー」

「ＬＬブック」をご存じですか？「ＬＬ」とはスウェーデン語の「LättLäst」（英語ではeasy to read）の略で、障がいのある方をはじめ、日本語が得意ではない方なども読書を楽しめるよう、簡単な言葉や絵・写真などの組み合わせで作られた「やさしく読みやすい本」のことを指します。この「ＬＬブック」をはじめ、点字や手話など、従来の本では読書を楽しむことが難しかった人たち向けの資料を集めた「バリアフリーコーナー」を新たに設置しました。場所は閲覧室テーマ展示コーナーの隣りです。利用対象以外の方々もご覧いただき、本の世界の奥深さを感じていただけたら幸いです。

企画・広報班

学校での読書推進を支援するための本の貸出し

本のテーマは58セットを用意し、貸出しをしています。

県立図書館では、高等学校や特別支援学校に対し、テーマ毎に約４０冊の本を１つのコンテナに入れて貸し出しています。学校図書館ですぐに展示ができるように、テーマ名を記した看板も入っています。

今年度は、約９，０００冊の貸出しを行いました。来年度も、小説や絵本、芸術や趣味に関する本等をセットに追加・更新します。

また、セット以外の本については、小・中・高・特別支援学校からの要望に応じて、１校につき５０冊まで、一か月間の貸出しをしています。授業や先生の教材研究等で本をまとめて借りたい場合などに利用されています。今後も学校の要望に応えながら、学校図書館への支援を行っていきます。

資料整理日のお知らせ

今年度は、閲覧室や書庫等の資料整理を実施し、利用者の皆様の利便性を更に向上させるため、年３回の資料整理日を実施してきました。

平成３０年度は８月、１２月、１月を除き、第３水曜日が資料整理日（休館）になります。

ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

＊詳しくは、平成３０年度図書館カレンダーをご覧ください（閲覧室カウンターで配布しています）。

秋田県立図書館だより Vol.88

発行年月　平成30年3月
編集発行　秋田県立図書館
住　　所　〒010-0952　秋田市山王新町14-31
TEL(018)866-8400
FAX(018)866-6200